

いつも、インシデント報告ありがとうございます

2017.4.11

京大病院医療安全情報88

【HBV再活性化リスクへの対処】

知っていますか？

- ・免疫抑制下ではHBVが再活性化することがあります。
- ・死亡事例も報告されています。

【他院事例】（医療機能評価機構 医療事故情報等収集事例報告書 平成29年3月）
関節リウマチに対するメトトレキサート治療中にAST/ALTが68/90と上昇したが、経過観察とした。

その後黄疸が出現し、AST/ALTも362/368に上昇。
HBV再活性化による急性肝炎と診断され、治療を開始したが、その後も改善せず死亡した。

【当院事例】

インフリキシマブ投与患者においてHBs抗原が陽性化したか医師は気付いておらず、薬剤師の鑑査にて判明し、必要な治療を行った。

Q1. ステロイド単独投与でも
HBV再活性化が起こるのか？
副腎不全への補充療法でも起こるのか？



A1. 厚労科研報告書では、既感染者のステロイド単独投与例におけるHBV再活性化が報告されています。

ステロイドの3か月以上の全身投与、もしくは、プレドニゾロン換算で20mg/日以上の高用量では、再活性化リスクは高まります。

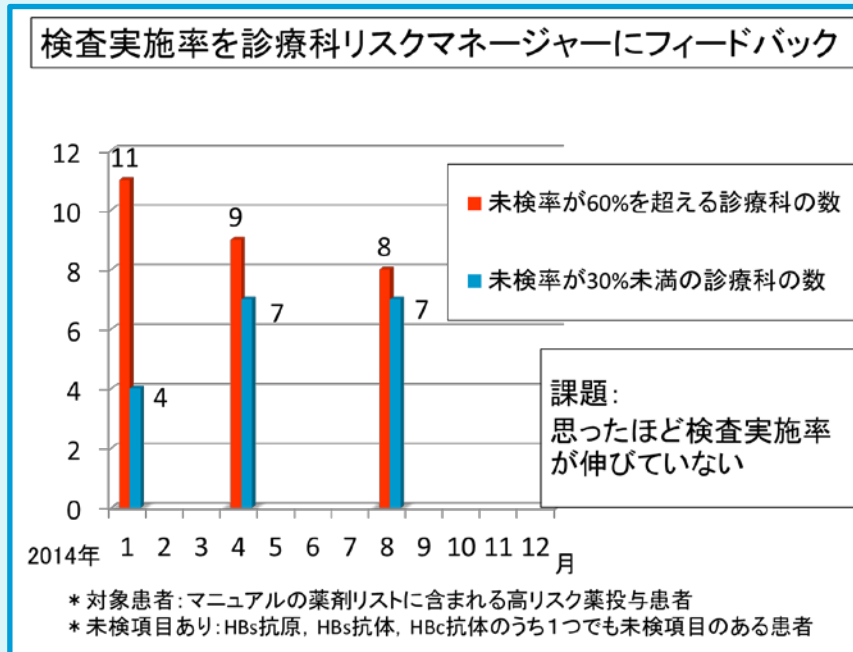
副腎不全に対する補充療法によるHBV再活性化のリスクについては、エビデンスがなく不明です（ちなみに京大病院では、年間約300名の患者にコートリルが処方され、うち50%が糖尿病内分泌栄養科から、30%が脳神経外科から処方されています）。

【リスクへの考え方の基本】

リスクが明確に存在し、かつ、回避（低減）できる方法があれば実行する。

インシデント報告に基づいた対策です

品質マネジメントシステム（QMS）活動の一環としてリスクに取り組んでいます



再活性化注意薬投与開始前の対応フローチャート

